

平成 21 年 5 月 28 日 (木)

平成 21 年度 第 1 回 練馬区地域包括支援センター運営協議会会議要録

平成 21 年度 第 1 回 練馬区地域密着型サービス運営委員会会議要録

平成 21 年度第 1 回練馬区地域包括支援センター運営協議会 平成 21 年度第 1 回練馬区地域密着型サービス運営委員会 会議要録	
1 日時	平成 21 年 5 月 28 日 (木) 午後 3 時 ~ 午後 5 時
2 場所	練馬区役所本庁舎 5 階庁議室
3 出席者	(委員 18 名) 橋本委員長、鎌田委員長代理、大久保委員、酒井委員、 篠田委員、高崎委員、中島委員、三ヶ崎委員、岩月委員、田中委員、 関口委員、小池委員、三橋委員、大垣委員、遠藤委員、重信委員、 上野委員、斉藤委員 (事務局 6 名) 福祉部長、地域福祉課長、介護保険課長、在宅支援 課長、高齢社会対策課長、大泉総合福祉事務所長
4 傍聴者	0 名
5 議題	地域包括支援センター運営協議会 1 高齢者相談センターの呼称使用について . . . 資料 1 地域密着型サービス運営委員会 1 地域密着型サービス事業者の公募について (非公開) . . . 資料 2 2 地域密着型サービス事業者の指定および廃止について . . . 資料 3 3 地域密着型サービス事業者の指定更新について . . . 資料 4 4 指定地域密着型サービスに係る高い報酬の算定について . . . 資料 5 その他 1 介護保険について . . . 資料 6
6 配布資料	席上配布資料 (1) 高齢者相談センターの呼称使用について . . . 資料 1 (2) 地域密着型サービス事業者の公募について . . . 資料 2 (3) 地域密着型サービス事業者の指定および廃止について . . . 資料 3 (4) 地域密着型サービス事業者の指定更新について . . . 資料 4 (5) 小規模多機能型居宅介護に係る高い報酬の設定について . . . 資料 5 (6) 介護保険について . . . 資料 6

平成 21 年 5 月 28 日 (木)

平成 21 年度 第 1 回 練馬区地域包括支援センター運営協議会会議要録

平成 21 年度 第 1 回 練馬区地域密着型サービス運営委員会会議要録

7 所管課	<p>(地域包括支援センター運営協議会)</p> <p>健康福祉事業本部福祉部在宅支援課高齢調整係</p> <p>： 5 9 8 4 - 4 5 8 2 (直通)</p> <p>E メール： zaitakusien01@city.nerima.tokyo.jp</p> <p>(地域密着型サービス運営委員会)</p> <p>健康福祉事業本部福祉部介護保険課事業者係</p> <p>： 5 9 8 4 - 4 5 8 9 (直通)</p> <p>E メール： kaigo02@city.nerima.tokyo.jp</p>
-------	---

第 1 回練馬区地域包括支援センター運営協議会
第 1 回練馬区地域密着型サービス運営委員会

(平成 21 年 5 月 28 日 (木): 午後 3 時 ~ 午後 5 時)

(委員長) 平成 21 年度第 1 回練馬区地域包括支援センター運営協議会および練馬区地域密着型サービス運営委員会を開催する。

本日は、この委員会が最後である。そこで事務局から、最後に各委員全員に一言お願いしたいということで、いろいろな感想など一言述べていただきたい。

最初に平成 21 年度人事異動に伴う事務局の方から自己紹介をお願いする。

(大泉総合福祉事務所長) 自己紹介。

(地域福祉課長) 自己紹介。

(在宅支援課高齢調整係長) 自己紹介。

(介護保険課事業者係長) 自己紹介。

(委員長) 本日の出席委員の状況、傍聴者の報告を願う。

(事務局) ただいまの出席委員 16 名である。中村委員、それから萩原委員は欠席、三橋委員については会議重複したため遅参するとの連絡があった。傍聴者はいない。

(委員長) それでは、事務局が事前に送付した「第 7 回の練馬区地域包括支援センター運営協議会および練馬区地域密着型サービスの運営委員会会議録(案)」について意見があるか。意見がなければ、後日区のホームページに公開する。

(了承)

地域包括支援センター運営委員会

1 高齢者相談センターの呼称使用について

(委員長) 次第に沿って議事に入る。最初は地域包括支援センター運営協議会の資料 1、高齢者相談センターの呼称使用について説明を願う。

(在宅支援課長) 【資料 1 について説明】

(委員長) なかなかきれいで、わかりやすい資料である。なにか意見はあるか。

(なし)

(委員長) 地域包括支援センター運営協議会に関する案件は、これで終了する。

地域密着型サービス運営委員会

1 地域密着型サービス事業者の公募について(非公開)

(委員長) 次は地域密着型サービス運営委員会である。資料2の説明を願う。

(介護保険課長) 【資料2について説明】

(委員長) いろいろなご意見につて、事務局の方でこの法人に確認をしていただいた上で、この法人に運営をお願いするという判断でよろしいか。

(了承)

(委員長) では次の案件3について説明願う。

2 地域密着型サービス事業者の指定および廃止

(介護保険課長) 【資料3について説明】

(委員長) 1の水戸市のケアサービス24を指定する理由は？

(介護保険課長) もともと練馬区に住んでいた方が、**住所地特例が適用される施設に入居されて、この夜間対応型の訪問介護を使いたいとの申請があり、事業者指定をしていくということである。**

(委員長) ほかに意見はあるか。特に意見がないので指定について了承したいがよろしいか。

(了承)

3 地域密着型サービス事業者の指定更新

(委員長) 次の案件3について説明を願う。

(介護保険課長) 【資料4について説明】

(委員長) 質問、意見等はあるか。

(委員) 地域密着型サービスの区内事業者の更新なのですが、第三者評価は入っていないが。

(介護保険課長) 練馬区が直接実地指導をすることができない場合において、第三者評価の結果を記載させていただいている。こちらは練馬区の実地指導を行っている、その結果を書かせていただいている。もちろん第三者評価を受けているとは思われるが、こちらには書いていない。

(委員長) 文言が変なのは2ページのグループホームつつじの里について、重点項目への取り組み状況、一番上の1行目のおしまい、「ボランティアとしてハワイアンや舞踊のサークルにも協力がある」と、これはどういう意味か。「ハワイアンや舞踊のサークルの協力がある」と自然に読めるが。

(介護保険課長) これは第三者評価の原文そのままを引用させていただいている。

(委員長) 埼玉社協の福祉サービス評価センターの問題ですね。それから、3ページのところの第三者評価の結果のところ外部評価で確認された事業所の特徴、これも埼玉社協の福祉サービス評価センターの言葉で、「パーソンセンタードケアと称して」なんておかしい。「パーソンセンタードケアによって」とかでしょうね。

それでは、他に特に意見がないようなので了承ということでよろしいか。

(了承)

4 地域密着型サービスに関わる高い報酬の算定について

(委員長) 次の案件に入る資料の説明を願う。

(介護保険課長) 【資料5について説明】

(委員長) 報酬については国が決められているが、この小規模多機能型居宅介護とそれから夜間対応型訪問介護、これに関しては、市町村ごとに独自報酬を設定しても良いということになっており、練馬区は昨年度これを実施したが3月で終わっていた。それから国も新しい方針を出した

ので、10月から、また新たに高い報酬を設定したい。その考え方をご説明いただいた。

質問はないか。全国的には、高いハードルをつくっているところと、とってもリーズなところと。東京都内の他の区も割合、リーズと言う言葉が悪いが、余りハードルの高くない形で独自報酬を設定しておられる。

実は、私は国のこの判定をする委員会の委員長で、いろいろな資料も見ているが、練馬としてのやり方について、了承ということではよろしいか。

(異議なし)

(委員長) 以上で地域密着型サービス運営委員会について終わる。

その他

1 介護保険について

(介護保険課長) [資料6について説明]

(委員長) 何か質問はあるか。よろしいか。

(了承)

(委員長) 本日予定された議案について、審議は終了となる。

新しくグループホームをつくるという施設については幾つかの意見が出ている、問い合わせいたただき、問題がなければ認めていただきたい。

それでは、私どもと一緒に地域包括支援センター運営協議会、地域密着型サービス運営委員会について議論してきた3年間を考えると、結構長かった、何かこれでおしまいというのは、ある意味で寂しいような感じもする、これでこの会の任期は終わりました。

そこで、委員の方から、一言ずつ感想やご意見をお聞かせいただければありがたい。

(委員) 最後に認知症グループホームに生活保護の受け入れがあるということではっきりしている。

(委員) 特に公募について委員の皆様のいろいろな視点に立った、利用者さんの視点に立ったご意見というのは、すごく勉強になった。

(委員) 今後の区民福祉の向上のために生かしていきたい。

(委員) 私はケアマネジャー代表として出席してきた。ケアマネジャーの世話人も、この3月で終わり、今までケアマネジャーの代表だからしっかり言わないというふうなことを背負ってきたので、今すごく肩の荷が下りてほっとしている。

地域包括支援センターのことについてお願いがある。私の事業所は区役所の中にあるから、やはり利用者がたくさん相談にもいらっしゃる。区民の方が介護保険課から2階に相談に行くのではなく、2階から地域包括の方が介護保険課の窓口にて、相談がすぐできるようなシステムにしていただけるとありがたい。

(委員長) 今のような意見など、言い残しておられる方は意見をどうぞ。

(委員) 訪問介護の事業の方の代表で参加した。この3年間参加したのを生かしていきたい。

(委員) 認知症のグループホームでホーム長をしている。練馬区の高齢者がどういうふうにして守られているか、1つの事業所をつくるにも、みんなでこんなふうにして、グループホームをつくる時に、皆さんがいろいろな意見を出していただいた。私も練馬区民として、これから一歩ずつ高齢者に近づいていくので、安心して練馬区で生活していきたい。

(委員) 被保険者の1人としてここへ参加した。練馬区の介護保険がどのような仕組みになっているのか、ぜひ知りたいということで参加し、自分の住んでいる練馬の介護保険制度はどのようなになっているのか、その中身はどのようなになっているかということを知りたくて参加した。

このように、被保険者も含めていろいろな立場の方の意見をたくさん取り入れながら運営しているのだということを知り、安心した。私も10年間看護師で勤務し、それから介護も10年ほど従事して、自分の持てる知識を活用できる場を与えていただいたことに非常に感謝している。

(委員) 看護師で、介護保険が始まって介護の勉強も、ケアマネジャーも取っているがやはり知識不足で、今は小規模多機能で仕事をしているが、毎日毎日何か自分に仕事を課して走り回っているみたい、これだけ書類をいろいろそろえなければいけないというのが今一番頭の中で

いっぱい。ここへ来ていろいろの方とお話し、役所の方のお話もいろいろ聞かせていただいたので、もっともっと勉強をして、介護のお手伝いをまだまだしていきたい。

(委員)ここへ参るときは乾いた海綿のように小さくなっていたが、帰りにはいっぱい水を含んで、得がたい情報をたくさんいただいた。

(委員)8年ぐらい前に、練馬区に引っ越してきて、住んでいるところが関町で自治会もなく、練馬の外れで、情報も少ない上に、これから先どうなるのだろうと不安を持って、自分のこれから先のことを考える意味で参加したが、いろいろ練馬区は、ほかの地域に比べて介護に関しては恵まれていて安心できる。地域包括支援センターに関しては、最初から名前が親しみやすい、神戸は「あんしんすこやかセンター」とか何か聞いているので、何で「地域包括支援センター」という舌を噛むような名前なのかと思っていたら、「高齢者相談センター」とに変わり、「相談」という言葉が入ったのはよかったと思っている。人によっては、かえってわかりにくくなったなんていう意見を聞くが、「相談」という言葉があれば、何か相談できるだろうと皆さん思ってくれる。そういう意味でも、委員として参加したことは良かった。ただ、地域包括支援センターそのものが住民に余り知られていないようで、私は消費生活アドバイザーで、そこに医療介護サービス研究会というのがあり、年明けに700名ばかりに、会員向けにアンケートをとった。40～50代が中心の会で、自分が在宅医療、在宅介護を受けるようになった際の相談先を複数選択で尋ねる項目があった。結果は地域包括支援センターへの相談をすると答えた方が7.4%と低かった。皆さんに余り知られていないことが、アンケート結果の報告でわかった。今回、「高齢者相談センターです！」というパンフレットを作られたことは、大変良かった。多色刷りで費用がかかったと思うが、少しでも住民に高齢者相談センターに相談すれば何とかなるように、これから先もお知らせいただきたい。

(委員)家族会の代表として、少しでも家族の負担を軽くしたいと発言をしてきた。

家族会も、この3年間で知名度が、上がった。東京都の地域資源ネットワーク事業を練馬で実施

し、そのおかげで立派なパンフレットもでき、モデル地域である豊玉を中心に、ワークショップの住民参加の集まりで、住民参加への促進に成果があった。その結果、茶話会という活動が2か所でき、本日も40人ほど茶話会に、地域住民の方が参加していた。その中に、支所の方が参加し、住民の相談を聞いている。こんな形が練馬区全体に広がっていくことによって、地域包括支援センターの高齢者相談センターも名前とともに実質的な活動ができていけるのではと思う。今後も、ほかの地域でも、もっと茶話会活動でなくても良いが、住民の声が上がるようなシステムを充実させていってほしい。私も努力したい。

(委員) 本当の素人というのは、今回の委員の中では、私ではなかろうか。

このごろ、この「地域包括支援センター」とかという言葉がほんのりとわかってきたと思う頃に、名前が変わるので、寂しいような、また嬉しいような気もする。ただ、これをきっかけに認知症予防推進委員というのが在宅支援課のところで同時に行われたときに、入らせていただき、この地域包括支援センターの支所、それぞれ19箇所に出むいて、「どうしたら私どもが役に立つか」ということで、健康体操、紙芝居、健康講座に参加し、各地区を回らせていただいた。名前は「フリリグッパ」という体操を導入して参加させていただいた。 やっと、これから新たなスタートをする中で、また委員をやらせてほしいという気持ちもある。

(委員) 大阪市を訪問していろいろ見たら、練馬区と違って元在宅介護支援センターが全部地域包括支援センターになっている。おもしろかったのは各包括支援センターが、昔から在宅介護支援センターのときから、大阪独特の呼称の、「寄り合い所」とか、何かそういうようないろいろな名前をつけていたので、すんなり在宅介護支援センターから地域包括支援センターになっても、「とにかくあそこに行けばいいのでしょう」という感覚ではあると聞いてきた。

今回、練馬も高齢者相談センターと呼称が変わったけれど、それでもやっぱり認知度が低いと感じた。

(委員) 歯科医師会の立場から3年間参加させていただいた。

我々は医療が専門、介護に関しては専門ではない。例えば事業所の選定も含めていろいろ専門的なことは、わからないところもたくさんあった。逆に我々の立場としては、介護と医療をどうやって結びつけていくかという部分、何ができるかというふうを考える。

特に、高齢者相談センターに相談に来た方たちが医療に関して、問題があった場合にどういう受け皿ができるのか、必ずしもきちんとしたシステムができていない、今後そういうものができていければ良い。

(委員) 介護の分野は、なかなか薬剤師も直接深く関わるわけではない、薬の関係から関わって皆さんの意見等を受けて、いろいろとコンタクトをとって薬剤師会としてどういった協力ができるかということで探ってきた。

私も今、実際にグループホームや小規模多機能の方の利用者に薬を渡している立場で、この会議に参加させていただいた。我々も薬剤師会として、こういった形で、参加できるかということ、これから深く考えていきたい。

(委員) 練馬の住民パワーみたいな1つの力になればいいなと思っている。

この委員会3年間の役割というのは、介護保険が改正されて、新たに生まれた地域包括支援センター運営協議会と地域密着型サービス運営委員会が海のものと山のものともわからない、当初、特に地域包括とか、歓迎されてできたというより、何か抑制の結果ではないかとかいろいろ言われてきたが、やはり全国的に見ても、まだ十分には役割を發揮していないのかもしれない。改善すべき余地はたくさんあるのかもしれないが、少なくとも、この委員会で初期段階の3年間でいろいろ議論ができて、特に直営から在宅支援センターが支所として連携するというスタイルが生み出されたので、練馬型のこういう地域包括支援センターとか地域密着型サービスが広がっていくことを願っている。

(委員長) 皆様には心から御礼を申し上げたい。

練馬区は、なかなかユニークな区と思う。都内でほかの区もお手伝いしているが、練馬区は人口

が大きい規模であるけれど、行政が非常に熱心で、「練馬型」といわれるような独自のものを打ち出している。それに対して、住民も黙っているというのではなく、ただ任せるのではなく意見を言う。公募委員が参加されるのは通常であるが、20人の委員の中で7人が公募委員というのはすごい。3割を超えている。だから、区の熱心さに呼応するように、熱心にいろいろな意見を出し合う、委員皆さんが熱心に、きちんと読んでくださっている、そういう区ということをつくづく感じた。私にとっても意義のある3年間であった。心から感謝申し上げたい。

(福祉部長) 代表してごあいさつ、お礼を申し上げたい。

さて、この地域包括支援センター運営協議会と地域密着型サービス運営委員会の委員からいろいろ感想をいただいた。3年間いろいろ貴重な意見をいただいたことに、まず御礼申し上げたい。

地域包括支援センターは、制度が確かに3年前からできて、19か所から、今回の第4期介護計画で22か所になった。いろいろ議論があって、実は本所と支所の関係で、4つの福祉事務所と実は支所のエリアが違う、それぞれエリアで4,000ぐらいの対象者から1万人ぐらいの対象者というところがあって、そこから整理をさせていただいて22か所、名称も先ほどいろいろ話題になったが、「高齢者相談センター」ということで、とりあえず第4期の介護保険の中で出発させていただいた。ただ、これがベストだというふうに全然思っていない。実は主任ケアマネジャーも、なかなか区独自で採用ができなく、非常勤で採用し、めどがついたところである。第4期の間空白の地域もあるので、この高齢者相談センターを充実させていくというのが今後、非常に大事なことであるので進めていきたい。

それから、地域密着型サービス運営委員会の方が、事業がなかなか進まないということで、今日もいろいろ提案させていただいたが、独自加算を引き続き練馬区も実施し、できるだけ多くの地域密着型サービス事業者の誘致をしていきたい。もちろん事業者の質が良くなければいけないので、それは委員会でいろいろ意見をいただき、我々事務局が事業者にここを改善してほし

いと伝え、できるだけ充実させていきたい。

最後に、この地域包括支援センター協議会および地域密着型サービス運営委員会の会議の水先案内人として、ご苦勞をいただいた委員長、委員長代理に、本当に心からお礼を申し上げ、お礼の言葉とさせていただきます。3年間いろいろありがとうございました。

(拍手)

(委員長) 今日お配りした資料2について、非公開の案件であるため、机の上に置いていただきたいと思います。本日はお疲れ様でした。これで閉会とする。